

NO.	事業名	政策の柱 — 政策	施策名	好循環P・ 戦略事業・ SDGs	事業の目的	事業内容		事業の 進捗	R5 事業費 (千円)	開始 年度	日本一 施策 事業	「①昨年度の評価(成果や課題)」と「②今後の取組方針」	見直し (予定)
						対象者・物 (誰・何に)	取組(何を)						
1	プロジェクト整備事業(関連含む)	Ⅳ－8 Ⅵ－13	個性豊かな観光と交流 の創出 円滑・快適、安全・安心 な道路づくりの推進	戦略事業 ・ SDGs	プロジェクト事業の効果 促進に向けた道路 の整備	市民・地権者・道路 利用者	道路整備・用地取得	計画 どおり	1,532,161			【①昨年度の評価(成果や課題)：プロジェクト関連の道路整備】 ・(仮)大谷スマートICなどの整備に向け用地取得を進めたほか、周辺道路の円滑な道路 交通確保に必要となる市道2457号線などの道路整備を推進した。 ・大谷振興について、交通の円滑化を図るための道路整備に向けた用地取得が完了し、 市道632・635号線の観音橋架け替えに係る下部工の整備を完了した。 ・(仮)大谷スマートIC開通に向けては、効果的な用地取得に努めるとともに、交通状況の 変化を見据えた周辺通学路の安全対策についても、引き続き推進する必要がある。 ・大谷振興における環状交差点の整備については、今後増加を見込んでいる道路利用者 の安全で円滑な道路交通の確保のほか、視覚的にも特徴があり、観光地のシンボルとし ての効果も期待できることから、早期に工事を完了させる必要がある。 【②今後の取組方針：プロジェクトの進捗に合わせた幹線道路整備】 ・(仮)大谷スマートICの整備に向け、権利者の理解促進を図りながら、計画的かつ効果的 な用地取得に取り組むとともに、周辺道路整備や、地元関係者と組織する「安全対策等検 討協議会」との協議を踏まえながら、更なる通学路の安全対策についても、引き続き整備 を推進していく。 ・大谷振興について、道路の狭あい部やクランク形状を解消した快適な道路環境の整備 に向け、道路占用事業者等との密な連携のもと適切な工程管理を行い、観音橋の架け替 えや環状交差点(ラウンドアバウト)の令和6年度完了を目指す。	
2	農林公園整備事業	Ⅳ－8	個性豊かな観光と交流 の創出		農林業観光交流施 設の充実	指定管理者	施設の維持保全、魅力 向上に伴う整備等	計画 どおり	54,067	H8		【①昨年度の評価(成果や課題)：観光施設の維持管理】 ・施設の修繕工事を実施するなど、安定的な管理運営に取り組んだ。 ・今後とも、指定管理者と連携しながら、老朽化対応などの管理運営を適切に行うほか、 更なる誘客促進に向けた魅力向上の取組についても検討をしていく必要がある。 【②今後の取組方針：適切な管理運営】 引き続き、指定管理者と協議を行いながら、安定した施設運営に努めるほか、「ろまんちっ く村」の再整備を見据えつつ、効果的・効率的な整備を実施していく。	
3	地域交流館整備事業	Ⅳ－8	個性豊かな観光と交流 の創出		農林業観光交流施 設の充実	指定管理者	施設の維持保全等	計画 どおり	46,000	H20		【①昨年度の評価(成果や課題)：観光施設の維持管理】 ・施設の維持修繕工事を計画的に実施し、適切な管理運営に努めたところである。 ・今後とも、指定管理者と連携しながら、地域の交流拠点として新たな利用促進策を行うな ど、更なる誘客促進を図る必要がある。 【②今後の取組方針：適切な管理運営】 引き続き、指定管理者と連携を強化しながら、施設の適切な管理運営による安定運営に 努めるとともに、地域の交流拠点として、各イベントの開催や地元農家と連携した事業等 を実施するなど、施設の魅力向上に取り組んでいく。	
4	観光宣伝事業 観光セールス強化事業	Ⅳ－8	個性豊かな観光と交流 の創出		各種媒体を活用しな がら本市の魅力ある 観光情報の発信を行 うとともに、自治体や 観光関係団体と連携 しながら、時期を捉え た首都圏等でのプロ モーション等により情 報発信を行うことで、 本市への誘客促進を 図る。	首都圏及び新幹線 沿線都市を中心とし た、本市外に在住 する方	・観光パンフレット(るる ぶ宇都宮等)の作成及 び配布 ・旅色による首都圏在住 の若年層向けのPR ・餃子、ジャズ、カクテル マップの配布 ・HPやSNSを活用した 情報発信 ・本市来訪の契機とする ためのトップセールス、メ ディアの活用、キャン ペーンキャラバンを実施	計画 どおり	22,372	H23		【①昨年度の評価(成果や課題)：効果的な観光宣伝事業の実施】 ・ライトラインの開業や「大谷コネクト」の供用開始などを契機に、るるぶの内容改訂・増 刷、市内外のイベントを通して、観光パンフレットの配布や観光PR動画の放映など、積極 的な観光宣伝による誘客促進が図られた。 ・また、旅色においては、電子雑誌、紙冊子及び動画を制作し、WEBサイト上への電子雑 誌及び動画の掲載などの観光プロモーションを行うなど、本市観光振興プランの戦略ター ゲットである首都圏在住の若年層に向け、本市観光資源の魅力発信ができた。 【②今後の取組方針：戦略的な観光PRの推進】 ・新型コロナウイルス感染症の5類移行後、国内外問わず観光客数が増加していることか ら、この好機を逃すことなく、戦略的かつ効果的に誘客促進が図られるよう、デジタルサイ ネージや人流動態システム等の観光DXにより収集されるデジタルデータを十分に活用し ながら、オール宇都宮で観光PRを推進していく必要がある。 ・今後は、観光情報の総合的なプラットフォームとなるようHPの更新を予定している宇都 宮観光コンベンション協会や市内観光事業者、栃木県と連携しながら、ターゲットである 「首都圏在住の若者」に訴求するよう、SNS等のデジタルを活用した積極的な観光プロ モーションに取り組んでいく。	

NO.	事業名	政策の柱 — 政策	施策名	好循環P ・ 戦略事業 ・ SDGs	事業の目的	事業内容		事業の 進捗	R5 事業費 (千円)	開始 年度	日本一 施策 事業	「①昨年度の評価(成果や課題)」と「②今後の取組方針」	見直し (予定)
						対象者・物 (誰・何に)	取組(何を)						
5	栃木県アンテナショップ運営事業 (負担金)	Ⅳ－8	個性豊かな観光と交流 の創出		首都圏において、本 市観光情報を発信す ることで、本市への 観光誘客を図る。	栃木県アンテナ ショップ「とちまる ショップ」	本市加工品の販売や観 光情報の発信などアン テナショップに係る運営 経費の一部を負担	計画 どおり	3,126	H24		【①昨年度の評価(成果や課題):アンテナショップの活用促進】 ・「とちまるショップ」の来店者が増加している好機を捉え、本市のイベントに合わせた特設 ブースを設置するなど、首都圏の主要な観光スポットにあるとちまるショップの立地や特 徴を存分に活かした積極的な観光PR活動を展開することで、市の知名度やブランドを向 上させ、誘客促進を図った。 ・引き続きアンテナショップを活用して、首都圏における効果的な情報発信を行い、誘客促 進を図る必要がある。 【②今後の取組方針:本市観光資源の更なるブランド力の向上】 ・栃木県や指定管理者等と意見交換を行いながら、本市観光資源の魅力発信に取り組む とともに、更なる誘客促進を図るため、効果的なイベントスペースの活用についても検討 し、観光客等に向け、積極的な情報発信を展開していく。	
6	ふるさと宮まつり事業(補助金)	Ⅳ－8	個性豊かな観光と交流 の創出		「ふるさと宮まつり」 の開催を支援するこ とで、郷土文化の醸 成や本市のイメージ アップにつなげる。	ふるさと宮まつり開 催委員会	宮まつりの開催に係る費 用の一部を補助	計画 どおり	13,500	S51		【①昨年度の評価(成果や課題):知名度向上と誘客促進】 ・新型コロナウイルス感染症の5類移行後、4年ぶりの通常開催となり、過去最高の来場 者数(62万人)を記録するなど、民間の団体や市民が相互に協力し合う地元のお祭りとし ての一体感の向上や郷土愛の醸成に加え、本市の誘客促進に寄与することができた。 ・引き続き、継続的な開催に向けた適切な手法の検討などについて、関係団体と連携しな がら、支援をしていく必要がある。 【②今後の取組方針:実行委員会への持続的な支援】 ・ふるさと宮まつりは、北関東最大規模の祭りとして市内外からの集客力が高く、本市の誘 客促進を図る上で効果的なイベントであることから、引き続き本市の知名度向上と観光振 興を図るため、支援をしていく必要がある。	
7	うつのみや花火大会事業(補助 金)	Ⅳ－8	個性豊かな観光と交流 の創出		「うつのみや花火大 会」の開催を支援す ることで、本市の知 名度向上やイメージ アップにつなげる。	特定非営利活動団 体うつのみや百年 花火	「うつのみや花火大会」 の開催に係る費用の一 部を補助	計画 どおり	3,000	H19		【①昨年度の評価(成果や課題):知名度向上と誘客促進】 ・新型コロナウイルス感染症の状況下と同様に完全チケット制での開催となったが、約2. 3万人が観覧し、本市の知名度向上やイメージアップなどにつなげることができた。 ・引き続き、関係団体と連携しながら、市民をはじめ多くの観光客に愛される花火大会とな るよう支援していく必要がある。 【②今後の取組方針:実行委員会への持続的な支援】 今後も、全国に誇れる花火大会であるうつのみや花火大会の支援を通じ、本市の知名度 向上や誘客促進を図っていく。併せて、ライトラインを活用することで来場者の利便性を向 上させるため、関係各所との調整・連携を図っていく。	
8	フェスタin大谷事業(交付金)	Ⅳ－8	個性豊かな観光と交流 の創出		「フェスタin大谷」の 開催を支援すること で、本市の観光拠点 である大谷地域観光 を推進する。	フェスタin大谷実行 委員会	フェスタin大谷の開催に 係る費用の一部を交付	計画 どおり	3,000	H13		【①昨年度の評価(成果や課題):大谷の魅力発信】 ・大谷地域を舞台とした小説をテーマに、飲食、蚤の市、初のミュージックライブなど、子ど もも含めて幅広い世代が楽しめる話題性のあるイベントを開催することで、大谷地域の魅 力発信を行った。 ・引き続き、県内外の観光客に対し、大谷をはじめとした本市の魅力を広く伝え、誘客や周 遊促進につなげるよう、実行委員会を支援していく必要がある。 【②今後の取組方針:大谷の観光振興の推進】 ・引き続き、大谷地域への更なる誘客促進を図るため、県内外の観光客へ、「石の里・大 谷」を広くPRするとともに、大谷を拠点とした北西部地域の魅力発信にもつながるよう、 「フェスタin大谷実行委員会」を支援していく。	
9	外国人の誘客促進事業	Ⅳ－8	個性豊かな観光と交流 の創出		外国人観光客の誘 客促進に取り組むこ とで、市内経済の活 性化を図る。	外国人観光客	・海外に向けた観光プロ モーション ・外国語版パンフレットの 作成・配布・PR	計画 どおり	6,664	H27		【①昨年度の評価(成果や課題):インバウンドプロモーションの実施】 ・外国人向けポータルサイトを活用したデジタルによるターゲット国への情報発信に組み み、誘客促進を図るとともに、栃木県で実施している「観光レップ」や「旅行商品造成事業」 の結果を踏まえ、本市を訪れる外国人観光客のニーズや動向、属性等について把握し た。 ・引き続き、外国人観光客のニーズや効果的なプロモーション手法、受入体制等の課題を 把握しながら、効果的な誘客促進に取り組んでいく必要がある。 【②今後の取組方針:更なるインバウンドの推進】 より効果的に外国人観光客等の本市への誘客を促進するため、宇都宮観光コンベンシ ョン協会やターゲット国に精通する事業者、栃木県と連携しながら、外国人に訴求する観光 コンテンツの洗い出しと効果的なプロモーション手法、受入体制等の課題を明確化し、根 拠に基づいた効果的な観光プロモーションを展開することで、更なるインバウンドの拡大を 図る。	

NO.	事業名	政策の柱 — 政策	施策名	好循環P ・ 戦略事業 ・ SDGs	事業の目的	事業内容		事業の 進捗	R5 事業費 (千円)	開始 年度	日本一 施策 事業	「①昨年度の評価(成果や課題)」と「②今後の取組方針」	見直し (予定)
						対象者・物 (誰・何に)	取組(何を)						
10	おもてなし推進委員会運営事業 (負担金)	Ⅳ－8	個性豊かな観光と交流 の創出		市民や事業者のおも てなし能力の向上さ せ、本市を訪れた観 光客に、「来てよかつ た」、「また訪れたい 」と感じていただき、本 市への再訪につなげ る。	おもてなし推進委員 会	観光ボランティアの育成 やおもてなしの向上に要 する経費の一部を負担	計画 どおり	400	H20		【①昨年度の評価(成果や課題)】：官民が連携したおもてなし体制の構築】 ・官民で組織された「おもてなし推進委員会」において、市民や事業所など市全体でおもて なし能力を向上させるため、セミナーの実施や出前講座などを実施することにより、市民や 事業者の「おもてなし力」の向上が図られた。 ・観光入込客数が増加し多くの人々が来訪することから、快適な観光につなげるためには 良質な観光案内ができるガイド者がより必要となってくる中で、ボランティアガイド養成講 座において、例年6名程度の参加者となっており、受講生の増加を図る必要がある。 【②今後の取組方針】：更なるおもてなしの充実】 本市での観光の満足度を高め、再訪につながるよう、更なる「おもてなし力」の向上と充実 を図るとともに、その実施にあたっては、本市を訪れて良かったと満足してもらえるよう、 「おもてなし推進委員会」との連携を更に強化し、講座やセミナーの開催などに取り組み、 全市一丸となっておもてなしを推進していく。	
11	観光コンベンション協会事業(補助 金)	Ⅳ－8	個性豊かな観光と交流 の創出		観光振興の中核的 役割を担う宇都宮観 光コンベンション協会 の支援を行うことで、 本市への観光誘客に よる市内経済の活性 化を図る。	宇都宮観光コンベ ンション協会	観光推進事業やフィル ムコミッションなどの事業 運営に要する経費の一 部を補助	計画 どおり	82,664	H12		【①昨年度の評価(成果や課題)】：官民一体となった観光振興と協会の更なる機能強化】 ・4月より宇都宮観光コンベンション協会の事務所を移転し、市内観光事業者とのネット ワークを活かした旅行商品の造成や独自性のある事業を実施するなど、本市の更なる観 光誘客や観光客の周遊促進に取り組んだ。 ・今後とも、旅行商品の更なる造成や事務所を活用したワークショップの開催、新規会員 の獲得などにより、自主財源の確保を図ることで、観光における中核的な機能を担えるよ う、当協会を引き続き支援していく必要がある。 【②今後の取組方針】：協会と連携した柔軟かつ機動的な観光事業の展開】 当協会が本市の観光における中核的な役割として、市内観光事業者と柔軟かつ機動的に 連携し、本市の魅力を最大限に活かした旅行商品の造成などの観光地づくりに取り組む ことができるよう、引き続き協会を支援していく。	
12	観光コンベンション協会事業(負担 金)	Ⅳ－8	個性豊かな観光と交流 の創出		本市の玄関口でもあ るJR宇都宮駅観光 案内所において、来 訪者へ丁寧でわかり やすい観光案内を行 うことで、おもてなし の向上を目指す。	宇都宮観光コンベ ンション協会	観光案内所などの維持 管理及び運営事業に要 する経費を負担	計画 どおり	8,903	H12		【①昨年度の評価(成果や課題)】：観光客への案内充実】 ・新型コロナウイルス感染症の5類移行やライトラインの開業などにより、多くの観光客が 訪れる中、各種パンフレットの配布や本市の観光情報の提供など、おもてなしの推進に取り 組み、本市の観光客の満足度向上や再訪意欲の醸成に取り組んだ。 ・今後ともMICEの開催をはじめ3X3オリンピック予選の開催など多くの観光客の来訪が 見込まれることから、引き続き観光情報の発信やおもてなしの充実に取り組んでいく必要 がある。 【②今後の取組方針】：案内機能の更なる充実】 今後も観光客が快適に観光できるよう、観光情報の発信や外国人観光客も含めた案内機 能の充実を図るなど、宇都宮観光コンベンション協会や市内観光事業者と連携しながら観 光客が快適に観光ができるよう、引き続き支援していく。	
13	宇都宮観光推進委員会事業(交 付金等)	Ⅳ－8	個性豊かな観光と交流 の創出		デスティネーション キャンペーンをきっか けに発足した「宇都 宮市DC推進委員会」 での取組を継承し、 観光事業者等との連 携をしながら観光事 業に取り組み、官民 一体となって本市観 光を推進し、地域経 済の活性化に寄与す る。	宇都宮観光推進委 員会	事業実施に係る経費を 補助	計画 どおり	10,000	H28		【①昨年度の評価(成果や課題)】：環境変化合わせた観光振興】 新型コロナウイルス感染症の5類移行後、全国的に入出が急速に回復するとともに、本市 ではライトライン開業や「大谷コネクト」の供用開始など本市の観光を取り巻く環境の変化 に合わせた観光施策を展開し、周遊促進やにぎわい創出を図った。 【②今後の取組方針】：オール宇都宮の観光振興と地域経済の活性化】 ・ライトライン開業や大谷コネクトの供用開始など本市の環境の変化だけでなく、本市を訪 れる人々も急増しており、誘客促進を図るうえで絶好の機会であり、そのような中、これま で以上に官民が連携した取組の実施や事業者が主体となった事業の展開、自走化を視 野に入れたデータに基づく事業計画の立案が必要となる。 ・豊富な知見を有する委員の力を存分に発揮し、民間目線での効果的な事業の企画立案 による戦略的・着実な事業展開を図ることからできるよう、ワーキンググループを設けるな ど、従来の仕組みを変更し、これまで以上にオール宇都宮で、本市観光の振興と地域経 済の活性化に寄与していく。	
14	観光振興促進事業(補助金)	Ⅳ－8	個性豊かな観光と交流 の創出		事業者が行う、観光 施設の改築や備品 の購入等を支援する ことで、本市の更なる 観光振興を図る。	・本市に体験型観 光施設を設置しよう とする事業者、工 場、伝統工芸品店 その他商店等 ・大谷エリア等での 新たな飲食店出店 希望者	整備に要する経費の一 部を補助	計画 どおり	2,000	H18		【①昨年度の評価(成果や課題)】：観光施設・事業所出店への支援】 ・大谷エリアへの新たな出店事業者等を支援することにより、大谷地域への立地誘導が促 進され、体験型観光や観光客へのおもてなしの向上が図られた。 ・引き続き、更なる本市の観光振興を図るため、当該補助金を活用した事業者への支援を 継続していく必要がある。 【②今後の取組方針】：補助金の活用促進】 引き続き、ものづくり等の体験施設や飲食・土産品販売の施設を整備する事業者への支 援を行い、体験型観光の更なる推進と飲食店舗等の出店をはじめとしたおもてなしの充実 に取り組んでいく。	

NO.	事業名	政策の柱 — 政策	施策名	好循環P ・ 戦略事業 ・ SDGs	事業の目的	事業内容		事業の 進捗	R5 事業費 (千円)	開始 年度	日本一 施策 事業	「①昨年度の評価(成果や課題)」と「②今後の取組方針」	見直し (予定)
						対象者・物 (誰・何に)	取組(何を)						
15	外国人観光客受入体制の整備	Ⅳ－8	個性豊かな観光と交流 の創出		外国人観光客が快適に市内旅行をしてもらえるよう、市内の受入環境を整備する。	市・民間団体等	・外国人観光客向け公衆無線LANの整備、運用維持管理 ・観光施設等における案内看板やホームページ、メニューなどの多言語化に係る費用の一部を交付	計画 どおり	6,536	H29		【①昨年度の評価(成果や課題)：外国人観光客の受入環境の充実】 ・外国人観光客の受入体制充実のため、公衆無線LANの機器更新や維持管理などを行うほか、各観光事業者において外国人観光客の受入体制の充実を図れるよう、外国人観光客受入体制整備補助金による支援などに取り組んだ。 ・引き続き、受入体制の充実に向け、外国人観光客のニーズを的確に捉えながら、補助金の制度の周知など、環境の整備促進に取り組んでいく必要がある。 【②今後の取組方針：外国人観光客の受入環境の充実】 今後は、外国人観光客のニーズを捉えた受入環境の整備や、観光案内の充実を図り、インバウンド需要の拡大に併せた受入環境の整備促進に取り組んでいく。	
16	観光拠点創出事業	Ⅳ－8	個性豊かな観光と交流 の創出	戦略事業	本市の特色を活かした観光拠点を整備することで、メディア等への露出を促し、市外からの誘客促進を図る。	餃子通り(宮島町通り)	・餃子をテーマとした様々な装飾 ・マスメディア等を活用した情報発信 ・餃子や大谷石など本市の観光資源をモチーフにしたグッズの配布	計画 どおり	870	H13	独自性	【①昨年度の評価(成果や課題)：官民一体となった観光拠点の整備】 ・餃子通りにおいて、市内専門学校と連携し、餃子通りに並ぶビルの上に餃子をテーマにしたアートを施すとともに、GYOZAモニュメントの前にスマホスタンドを設置することで、餃子通りの更なる魅力向上により本市への誘客促進を図った。 ・県外での観光PR活動時に餃子通りをはじめとした観光拠点のPRを行いながら、餃子・カクテル・ジャズ・大谷石などのグッズを配布するなど、餃子をきっかけとした本市全体の観光資源の魅力発信を行うことで、餃子と餃子以外の観光資源も絡めた市内複数のスポットをまわる周遊促進につなげた。 ・引き続き、関係事業者等と連携しながら、観光客のニーズやターゲット層を捉えながら、新たな観光スポット等の磨き上げに取り組んでいく必要がある。 【②今後の取組方針：観光拠点の更なる磨き上げ】 情報発信力が高く旅行にもアクティブである若年層をターゲットにし、より一層、観光客が餃子通りを楽しみ・満喫できるようなコンテンツの検討などの餃子通りの磨き上げや、餃子通りを拠点とした市内の周遊促進につながるよう中心市街地や北西部の魅力的な観光スポットのPRなど、民間事業者等と連携しながら、餃子をきっかけとした誘客促進につながるよう観光資源の更なる磨き上げや周遊促進に取り組んでいく。	
17	森林公園の再整備	Ⅳ－8	個性豊かな観光と交流 の創出	戦略事業	自然を活かした体験型観光地としてより一層観光客を誘客するため「市森林公園再整備方針」に基づき民間活力を最大限に活用した森林公園の魅力向上を行う。	森林公園 指定管理者	施設の維持保全、魅力向上に伴う整備等	計画 どおり	4,999	R3		【①昨年度の評価(成果や課題)：新指定管理者の選定と再整備に向けた準備】 ・再整備に係る事業者募集・選定アドバイザーの支援も受けながら、令和6年度より森林公園の管理運営と再整備を一体的に実施する新指定管理者を選定することができた。 ・引き続き、新指定管理者が提案した新たな森林公園の実現に向け、必要な整備費用の確保等、再整備の準備を指定管理者と一体となって進めていく必要がある。 【②今後の取組方針：再オープンに向けた着実な再整備と準備】 令和7年度に予定している再オープンに向け、指定管理者と連携しながら、施設や園全体のリニューアル工事を着実に進め魅力を向上させていくとともに、ソフト事業の実施に向けた準備に係る指定管理者への支援にも取り組んでいく。	拡大
18	大谷観光景観形成事業(補助金)	Ⅳ－8	個性豊かな観光と交流 の創出	SDGs 好循環P 戦略事業	地域団体が実施する観光景観形成を支援し、大谷地域の観光振興を推進する。	大谷地区総合開発 推進協議会	大谷・多気地区の美観維持(奇岩の雑草等除去、樹木剪定など)に係る費用の一部を補助	計画 どおり	3,000	H15		【①昨年度の評価(成果や課題)：地元団体の主導による観光景観の向上】 ・大谷・多気エリアの良好な景観づくりに向けた地元団体による活動への支援を行い、観光景観の向上を図った。 ・引き続き観光入込客数の回復等に伴い、大谷周辺地域ならではの資源の一つである景観の重要性が高まっていることから、活動主体である地域団体と連携し、今後とも観光景観の維持・向上に取り組む必要がある。 【②今後の取組方針：大谷ならではの景観を活用した観光振興の推進】 グリーンスローモビリティ運行など本市事業もふまえ、大谷地区総合開発推進協議会と優先的に整備する箇所について協議しながら、地元団体と連携のもと大谷ならではの景観をはじめとした地域資源を活用し、奇岩群などのスポットや周遊ルートなどの景観づくり等に取り組む。地域観光振興を推進する。	
19	大谷特性活用支援事業(補助金)	Ⅳ－8	個性豊かな観光と交流 の創出	SDGs 好循環P 戦略事業	大谷の地域資源を活用した事業開発や学術研究等を支援し、新たな魅力となる地域産業の創出を推進する。	・市内に事務所又は事業拠点を有する法人、LLP(有限責任事業組合) ・国内の高等教育機関又は当該高等教育機関に所属する教職員を代表とする研究グループ	大谷の地域資源を活用した事業開発や学術研究等の取組に係る経費の一部を補助	計画 以上	5,500	H23		【①昨年度の評価(成果や課題)：新たな観光資源の創出】 ・大谷石採取場跡地でのアートを取り入れた体験型観光コンテンツ創出への支援により、地域資源の価値向上や新たな目玉となる可能性のある観光資源の創出を図った。 ・大谷石の工学的特性や質感、大谷石採取場跡地での飲料の熟成効果などの研究への支援により、大谷石の風化や素材としての特徴、飲料の長期間熟成の方法などについて検討が促進された。 ・引き続き、地域資源の更なる有効活用を図りながら、地域の新たな魅力などに繋がる事業創出を図っていく必要がある。 【②今後の取組方針：地域資源を活用した新事業創出の促進】 ・これまで支援を行ってきたコンテンツが持続可能な事業として地域に定着するよう、大谷エリアの観光周遊などの取組とも連動しながら支援等を行う。 ・地域資源の更なる活用や価値の向上、並びに地域産業の振興等に向け、引き続き地域資源に関する学術研究に対する支援に取り組み、新事業創出の促進を図る。	

NO.	事業名	政策の柱 — 政策	施策名	好循環P ・ 戦略事業 ・ SDGs	事業の目的	事業内容		事業の 進捗	R5 事業費 (千円)	開始 年度	日本一 施策 事業	「①昨年度の評価(成果や課題)」と「②今後の取組方針」	見直し (予定)
						対象者・物 (誰・何に)	取組(何を)						
20	大谷地域資源活用事業 (冷熱エネルギーを活用した大谷地域の振興)	Ⅳ－8	個性豊かな観光と交流の創出	SDGs 好循環P	冷熱エネルギーを活用した事業を推進し、大谷地域の振興を図る。	冷熱エネルギー活用機器を導入し、継続して冷熱エネルギー活用事業を行う事業者	冷熱エネルギー活用機器の導入に係る経費の一部を補助	計画どおり	2,000	H24	独自性	【①昨年度の評価(成果や課題)：大谷夏いちごの産地化の促進】 ・上駒生地区において大谷夏いちご栽培に取り組んでいる事業者への冷熱エネルギー活用機器導入支援により、大谷夏いちご栽培の生産環境の向上を促進した。 ・栽培や冷熱の活用などの技術確立や人材確保、販売促進等に係る支援により、大谷夏いちご栽培の安定化を図り、産地化を一層促進していく必要がある。 【②今後の取組方針：冷熱エネルギーの利用促進】 地域ならではの資源である冷熱エネルギーについて、SDGsや脱炭素化の推進に効果が期待できることから、冷熱エネルギーを活用した事業や効果について市内外の事業者等へ積極的に周知や提案を行い、利用促進を図る。	
21	(公財)大谷地域整備公社運営費補助金	Ⅳ－8	個性豊かな観光と交流の創出	SDGs	大谷石採取場跡地等の安全対策を総合的に推進する。	(公財)大谷地域整備公社	大谷地域の安全対策を行う大谷地域整備公社の運営費の一部を補助(栃木県2：宇都宮市1)	計画どおり	45,796	H2		【①昨年度の評価(成果や課題)：観測システムの運用による迅速な対応等】 ・大谷地域整備公社の運営費の補助により、観測システムによる採取場跡地での振動発生等の常時監視・解析等を実施するとともに、振動観測時においても、県・市・公社等で連携を図り、地域住民への迅速な情報提供や、庁内関係部署への伝達など適切な措置を行った。 ・今後も大谷地域の市民生活の安定化に向け、関係機関との連携により、大谷石採取場跡地の安全対策に取り組んでいく必要がある。 【②今後の取組方針：着実な安全対策の遂行】 大谷地域の安全対策の推進及び市民生活の安定を図るため、観測システム等の安全対策の実施主体である大谷地域整備公社の運営支援を行うとともに、大谷石材協同組合による埋め戻し事業などの取組についても、引き続き関係機関と連携を図りながら着実に推進する。	
22	観光地インフラ整備事業 ※大谷魅力発信事業を含む	Ⅳ－8	個性豊かな観光と交流の創出	SDGs 好循環P 戦略事業	グリーンスローモビリティやワンダーパスポートの運用などにより、観光交通環境の向上を図る。	・市民 ・来訪者	・交通混雑の緩和や周遊性の向上などに向けてグリーンスローモビリティの運行等を実施 ・地域内の周遊の魅力向上や滞在時間の延伸などに向けてワンダーパスポートの運用等を実施	計画どおり	22,000	R1		【①昨年度の評価(成果や課題)：周遊促進策を通した滞在時間などの拡大、繁忙期の交通渋滞緩和】 ・観光施設の入場料や飲食店のクーポン、並びにグリーンスローモビリティでの周遊をセットにしたワンダーパスポートの長期間の販売などを通し、地域内の滞在時間や消費額の拡大を図った。 ・グリーンスローモビリティの運行体制の最適化に向けて、委託事業者や地域ツアーガイド等と連携し、地域主体での運行に向けて改善を行った。 ・繁忙期の交通環境向上に向けた取組として、ゴールデンウィークとお盆にパーク＆バスライドを実施した。 ・目標とする120万人の観光入込客数を見据え、引き続き周遊サービスの取組や、交通環境向上に向けた適切な対策を検討していく必要がある。 【②今後の取組方針：大谷地域の観光交通の推進】 「大谷地域観光交通対策推進会議」での議論・検討を踏まえながら、繁忙期の交通環境の向上に向け、パーク＆バスライド等の検証を行うとともに、地域主体のグリーンスローモビリティの運営体制に向け、ガイドドライバーや運行管理者などの人材確保・育成に取り組む。	改善
23	大谷観光周遊拠点施設建設 継続事業 ※拠点性向上事業を含む	Ⅳ－8	個性豊かな観光と交流の創出	SDGs 好循環P 戦略事業	観光周遊拠点施設の整備及び適切な管理等により、拠点性の向上を図る。	・市民 ・来訪者	観光周遊拠点施設の整備工事	計画どおり	515,727	H30		【①昨年度の評価(成果や課題)：大谷観光周遊拠点施設の開業】 ・着実に整備工事を実施し、11月に「大谷コネクト」を供用開始した。また施設の供用開始を大谷地域全体の賑わいに繋げるため、指定管理者や地元団体と連携しながら約1か月にわたりオープン記念イベントを実施した。 ・今後は、大谷コネクトの情報・発信機能や滞在・交流機能をフル活用し、「大谷コネクト」を核とした新たな賑わいを創出していく必要がある。 【②今後の取組方針：大谷コネクトを活用した新たな賑わいの創出】 ・指定管理者に管理を引き継いだ大谷地域ポータルサイトやSNSなども活用した情報発信が強化されるよう指定管理者への支援と地域団体との連携強化を行っていく。 ・大谷コネクトをユニークベニューとして活用した多彩なイベントの開催に向け、利用状況や利用者ニーズを把握し、指定管理者と連携し積極的なイベント誘致を行う。	廃止・終了

NO.	事業名	政策の柱 — 政策	施策名	好循環P ・ 戦略事業 ・ SDGs	事業の目的	事業内容		事業の 進捗	R5 事業費 (千円)	開始 年度	日本一 施策 事業	「①昨年度の評価(成果や課題)」と「②今後の取組方針」	見直し (予定)
						対象者・物 (誰・何に)	取組(何を)						
24	MICE推進事業	Ⅳ－8	MICEの推進による魅力 と交流の創出	SDGs 好循環P 戦略事業	・本市へのMICE誘 致促進 ・宇都宮駅東口交流 広場における賑わいの創出	・MICE主催者 ・市民 ・来訪者	・商談会等におけるセー ルス ・誘致活動のデジタル化 ・デジタルアートをを用いた イベントの開催	計画 どおり	10,635	R3		【①昨年度の評価(成果や課題):効果的・効率的な誘致活動と駅東口の賑わい創出】 ・(一社)宇都宮観光コンベンション協会と連携しながら、合同商談会や展示会等に出展し、本市のプロモーションを行うほか、国内で開催されるコンベンションに係るデータベースや顧客訪問を管理するシステムを整備し、効果的・効率的に誘致活動を行ったところであり、今後も、MICE開催件数の増加に向けて積極的な誘致活動を行っていく必要がある。 ・イベントの閑散期にあたる12月から2月において、宇都宮駅東口交流広場に大型LEDビジョンを設置し、音と光の演出を行うイベントを開催することで、賑わいを生むことができた。今後は、多様な主体によるイベントが創出されていく仕掛けづくりを進める必要がある。 【②今後の取組方針:国際会議の誘致に向けた取組の深化と収益化を見据えたイベントの展開】 ・国際会議を含めたMICEの誘致を強化するため、商談会や展示会等への出展を積極的に行っていくとともに、国や関係機関、他自治体との連携強化やMICE分野へのデジタル活用をより一層進めていく。 ・宇都宮駅東口交流広場等における賑わい創出については、宇都宮駅東口交流拠点施設の指定管理者を中心に、広場や施設を有効活用することで、収益化できる事業手法を検討しながら事業を展開する。	拡大
25	観光コンベンション協会事業補助 金(MICE関連事業)	Ⅳ－8	MICEの推進による魅力 と交流の創出	SDGs 好循環P 戦略事業	・本市へのMICE誘 致促進 ・MICE主催者への 支援強化	・MICE主催者 ・市民 ・MICE関係団体、 事業者(市内・市 外) ・来訪者	・MICE主催者等に対す るセールス ・本市でMICEを開催す る方への支援 ・主催者等へのファムツ アーの開催 ・MICE関連団体との連 携強化	計画 どおり	45,407	R3		【①昨年度の評価(成果や課題):宇都宮観光コンベンション協会を中心とした積極的な誘致活動】 ・(一社)宇都宮観光コンベンション協会が主体となり、東京圏を中心に誘致セールス活動を行い、多数のMICE主催者へのプロモーションを行うとともに、主催者や企画運営事業者等に対する視察ツアーを開催するなど取組により、多数のMICE獲得につなげることができた。 ・今後は、「オール宇都宮」でMICE誘致や開催に対する支援を行い、更なる誘致や来訪者満足度の向上を図る取組を進める必要がある、 【②今後の取組方針:「オール宇都宮」でMICE主催者・参加者を支援する仕組みの構築】 県内・市内のMICE関連団体や事業者、大学等で構成する「宇都宮MICEネットワーク」において、MICE主催者や参加者のニーズに沿ったおもてなしの充実を図りながら、MICEを通して「稼ぐ」取組を進めるなどにより、「オール宇都宮」でMICEを推進する機運を高めていく。	拡大
26	自転車のまちづくり推進事業	Ⅳ－8 Ⅲ－6 Ⅵ－13	スポーツを通じた都市の 魅力向上・地域活性化 日常生活の安心感の向 上 「自転車のまち宇都宮」 の推進	好循環P ・ 戦略事業 ・ SDGs	自転車の利用・活用 の促進	自転車利用者	・駐輪環境整備 ・自転車マップの作成	計画 どおり	2,154	H15	独自性	【①昨年度の評価(成果や課題):自転車利用の促進に関わる利用環境の更なる充実】 ・自転車と公共交通の利用促進を図るため、ライトライン開業までに、ライトライン停留場周辺に駐輪場を計画的に整備するとともに、バス停留所付近の民間事業者の協力を得ながら、駐輪場を計画的に整備した。 ・自転車マップについては、市内の観光地等を巡る市内版及び日光市や鹿沼市、塩谷町の観光地を巡る広域版を最新情報に更新し、宮サイクルステーションや観光案内所等で配布することにより、サイクルツーリズムの推進を図った。 ・駐輪場については、引き続き利便性の向上に向けて整備を進めるとともに、利用促進に向けた効果的な周知に努める必要がある。 ・自転車マップについては、自転車利用者が利用しやすく、分かりやすい案内方法を検討するとともに、利用促進に向け周知に努める必要がある。 【②今後の取組方針:官民連携による計画的な事業の推進】 ・NCCの形成に向け、「第2次宇都宮市自転車のまち推進計画」に基づき、公共交通と自転車の相互の利用促進を図るため、引き続き、民間事業者に協力をいただきながら、運行本数の多い路線や乗客数の多いバス停を中心に駐輪場を拡充し、利用者の更なる利便性向上を図るとともに、広報紙やHP等を通じて周知に取り組んでいく。 ・自転車マップについては、サイクルツーリズムを推進するため内容の充実を図るとともに、観光情報と連携した利便性の高い案内方法を検討するほか、広報紙やHP等を通じた効果的な周知啓発を行っていく。 ・サイクルツーリズムの更なる推進や、バス停留場付近の駐輪場の利便性向上に向けた考え方等について整理しながら、計画の中間見直しを進めていく。	

NO.	事業名	政策の柱 — 政策	施策名	好循環P ・ 戦略事業 ・ SDGs	事業の目的	事業内容		事業の 進捗	R5 事業費 (千円)	開始 年度	日本一 施策 事業	「①昨年度の評価(成果や課題)」と「②今後の取組方針」	見直し (予定)
						対象者・物 (誰・何に)	取組(何を)						
27	ジャパンカップサイクルロードレースの開催	Ⅳ－8	スポーツを通じた都市の魅力向上・地域活性化	SDGs 好循環P 戦略事業	UCI(国際自転車競技連合)が公認するアジア最高位の自転車ワンデイルードレースの開催を通して、交流人口の増加による地域経済の活性化のほか、「自転車のまち」としての都市ブランド力の向上やシビックプライドの醸成を図る。	・NPO法人ジャパンカップサイクルロードレース協会 ・大会出場選手及び市民を含む大会観戦者	・「ジャパンカップサイクルロードレース」の開催に係る費用の一部交付 ・安全安心な大会運営に向けたコース整備等を実施	計画 どおり	231,109	H4	トップクラス	【①昨年度の評価(成果や課題)：第30回記念大会の開催と開催効果の拡大】 ・過去最多となる7チームの「ワールドチーム(世界トップカテゴリー)」や有名選手が参戦し、ハイレベルなレースが展開され、幅広い世代が参加して楽しめる付帯イベントを実施したことなどにより、クリテリウムに過去最高の5万5千人が来場、大会を通しては13万3,800人が来場し、経済波及効果は過去最高の31億2,200万円にのぼるなど、記念大会に相応しい盛り上がりを創出することができた。 ・また、YouTubeでの大会映像視聴回数が約16万回、デジタル広告の表示回数が約5,600万回を記録し、多くの方々に大会を知ってもらうとともに、「自転車のまち」としての本市の魅力を幅広く発信することができた。 ・令和6年度においては、大会の名称やロゴの変更を活かしながら、市民をはじめ多くの方々から注目を集める大会を開催し、開催効果を更に拡大していく必要がある。 【②今後の取組方針：大会開催による効果の更なる向上】 ・第30回記念大会と同等の「ワールドチーム」や有名選手を招聘するなど、国内外から注目を集める大会を開催することにより、「自転車のまち宇都宮」を世界にPRするとともに、都市ブランド力の向上や地域経済の活性化、国際大会の開催地としてのシビックプライドの醸成を図る。	
28	「3x3のまち」推進による都市魅力向上事業	Ⅳ－8	スポーツを通じた都市の魅力向上・地域活性化	SDGs 好循環P 戦略事業	・FIBA(国際バスケットボール連盟)が主催する3人制バスケットボール「3x3」の国際大会の開催を通して、交流人口の増加による地域経済の活性化のほか、「3x3のまち」としての都市ブランド力の向上やシビックプライドの醸成を図る。 ・また、多くの市民が3x3に触れられる機会を創出し、「3x3のまち宇都宮」を推進する。	・FIBA3x3ワールドツアー「うつのみや」実行委員会(現、3x3のまち宇都宮推進委員会) ・全市民	・本市で開催する「FIBA3x3ワールドツアー」に係る費用の一部を交付 ・小学生対象の「宇都宮市長杯」の開催 ・市内小中学校対象の3x3教室の実施 ・国内トップリーグ「3x3. EXE PREMIER」の誘致開催	計画 どおり	387,052	H28	トップクラス	【①昨年度の評価(成果や課題)：大会を通じた地域経済の活性化と都市ブランド力の向上】 ・ワールドツアーの開幕戦「オーブナー」として誘致開催することができ、大会開催を通じて、7万人が来場し、経済効果は5億8,640万円にのぼるなど、街なか賑わいを創出することができた。 ・また、YouTubeでの大会映像の視聴回数が約200万回を記録し、「3x3のまち」としての本市の魅力を幅広く発信することができた。 ・令和6年4月の「うつのみやオーブナー2024」及び5月に新たに開催する「パリ2024オリンピック予選大会」の開催に向け、FIBAをはじめとする関係団体との調整のほか、幅広い業種の企業から協賛金を獲得し、開催に向けた準備を進めることができた。 ・また、FIBAからの要請により、3x3本市代表の小学生チームをスイスに派遣し、地元チームとの交流試合を通じた人間力の向上や、「3x3のまち宇都宮」を世界に発信することができた。 ・引き続き、大会開催準備を着実に進め、3回目となる「うつのみやオーブナー」及び「パリ2024オリンピック予選」を盛大に開催し、開催効果の更なる向上を図るとともに、多くの市民が3x3に触れられる取組を充実し、「3x3のまち宇都宮」の更なる推進を図る必要がある。 【②今後の取組方針：大会開催効果の更なる向上と「3x3のまち宇都宮」の推進】 ・大会主管である「3x3のまち宇都宮推進委員会」と連携しながら、「うつのみやオーブナー2024」及び「FIBA3x3パリ2024オリンピック予選大会」の開催に当たり、2大会期間(4/26(金)～5/5(日))を「3x3ウィーク」と称し、市民をはじめ多くの方々に世界トップレベルのプレーを体感していただくとともに、出場選手と触れ合える多彩な付帯イベント等を展開することで、3x3史上最大の盛り上がりを創出し、「3x3のまち宇都宮」を全世界に発信する。	
29	全日本自転車競技選手権大会シクロクロスの開催	Ⅳ－8	スポーツを通じた都市の魅力向上・地域活性化	SDGs 好循環P 戦略事業	UCI(国際自転車競技連合)が公認するシクロクロスレースの開催を通して、交流人口の拡大のほか、「自転車のまち」としての都市ブランド力の向上やサイクルスポーツの振興等を図る。	宇都宮サイクルスポーツ推進委員会	「宇都宮シクロクロス」の開催に係る費用の一部を交付	計画 どおり	9,500	H27		【①昨年度の評価(成果や課題)：日本ナンバーワンを決定する大会開催を通じた地域経済の活性化】 ・平成28年度以来2度目となる全日本自転車競技選手権大会を開催し、国内最高峰のハイレベルなレースを安全かつ円滑に実施するとともに、食のエリアやアウトドア関連ブースの設置や、大人から子どもまで楽しめる付帯イベントの実施などにより、2日間を通して、県内外から21,000人が来場し、「自転車のまち宇都宮」のブランド力を高めることができた。 ・また、全日本自転車競技選手権大会を主催するJCF(日本自転車競技連盟)から、宇都宮市での安全な大会運営のほか、ろまんちっく村のアクセスの良さや会場全体の大きなにぎわいについて高い評価を得ることができた。 ・JCFが令和6年度の全日本自転車競技選手権大会についても、令和5年度に引き続き本市で開催することを決定したことを踏まえ、大会を盛大に開催し、「自転車のまち宇都宮」の更なる推進を図る必要がある。 【②今後の取組方針：2年連続の全日本選手権開催による地域経済の活性化】 ・JCFや宇都宮サイクルスポーツ推進委員会と連携しながら、節目の30回目の開催を迎える全日本自転車競技選手権大会を成功に収めるとともに、市民をはじめ多くの方々が様々なサイクルスポーツに親しめる付帯イベントの展開などにより、市民の認知度向上につなげ、さらに、地域経済の活性化や、「自転車のまち」としての都市ブランド力の向上、全日本選手権の開催地としてのシビックプライドの醸成を図る。	

NO.	事業名	政策の柱 — 政策	施策名	好循環P ・ 戦略事業 ・ SDGs	事業の目的	事業内容		事業の 進捗	R5 事業費 (千円)	開始 年度	日本一 施策 事業	「①昨年度の評価(成果や課題)」と「②今後の取組方針」	見直し (予定)
						対象者・物 (誰・何に)	取組(何を)						
30	プロスポーツチーム支援事業	Ⅳ－8	スポーツを通じた都市の 魅力向上・地域活性化	SDGs 好循環P 戦略事業	本市をホームタウンとする「栃木SC」「宇都宮ブレックス」「宇都宮プリツゼン」の3つのプロスポーツチームと、まちづくりのパートナーとして緊密に連携することにより、経済・地域の活性化や都市ブランド力の向上、シビックプライドの醸成を図る。	・3つのプロスポーツチーム ・全市民	・地域の盛り上がりの創出に向けた連携(ファン層拡大に向けた広報活動、公式戦や練習等活動環境の向上など) ・地域密着型チームの確立に向けた連携(市民がプロスポーツチームに触れられる機会の拡大など) ・プロスポーツチームと連携した誘客促進(アウェイツーリズムなど) ・プロスポーツチームの活動拠点の整備に対する連携・支援(ブレックスアリーナなど)	計画 どおり	6,264	H18		【①昨年度の評価(成果や課題)：ホームタウン自治体としての支援連携策の実施】 ・市有施設へのポスター掲出や市広報紙への試合情報の掲載など、プロスポーツチームのファン層拡大に向けた広報活動を実施するとともに、各チームのライトラインラッピングを通じて「プロスポーツのまち宇都宮」をPRできた。 ・宇都宮ブレックスが進める新アリーナ整備に係る定期的な意見交換を行い、アリーナ整備の進捗状況を確認した。 ・引き続き、プロスポーツチームがもたらす効果を高められるよう、市民がプロスポーツに触れる機会の拡大や、プロスポーツチームと連携した本市の魅力発信などの連携事業を推進し、経済・地域の活性化や都市ブランドの向上、シビックプライドの醸成に繋げていく必要がある。 【②今後の取組方針：プロスポーツチームがもたらす効果の拡大】 ・プロスポーツチームが本市にもたらす効果の拡大を図るため、更なるファン層拡大によるシビックプライドの醸成のほか、アウェイツーリズム等年間を通して賑わいの創出につながる事業を推進する。 ・また、宇都宮ブレックスが進める新アリーナ整備の進捗に合わせて、支援策を検討するなど、プロスポーツチームの活動拠点の整備に対する連携・支援に取り組む。	
31	スポーツツーリズム推進事業	Ⅳ－8	スポーツを通じた都市の 魅力向上・地域活性化	SDGs 好循環P 戦略事業	本市独自のスポーツツーリズムの展開により、多くの来訪者を迎え入れ、スポーツによる年間を通した賑わいを創出する。	全市民	・スポーツツーリズム推進体制の構築に向けた検討 ・一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構(JSTA)が主催する「スポーツツーリズム・コンベンション」の開催	計画 どおり	4,550	R4		【①昨年度の評価(成果や課題)：本市独自のスポーツツーリズム推進の方向性の導出】 ・JSTAの支援を受けながら、本市ならではのスポーツツーリズムを効果的かつ継続的に推進していくに当たり、望ましいとする体制について導出することができたことから、この成果を踏まえ、令和6年度においては、本市にとって最適なスポーツツーリズム推進体制を構築する必要がある。 ・JSTAが主催する「スポーツツーリズム・コンベンション」を本市で初めて開催し、多くの参加者を集め、全国のスポーツツーリズム関係者に対して、本市の取組を発信し、スポーツ先進地としての本市の認知度向上を図ることができた。 【②今後の取組方針：本市独自のスポーツツーリズムの推進】 ・プロスポーツチームとの意見交換等を行いながら、サイクルツーリズム等のスポーツツーリズムの取組を推進する。 ・スポーツを活用したまちづくり推進ビジョン」に基づき、今後検討を進める産学官連携の推進体制を見据えながら、本市にとって最適なスポーツツーリズムの推進体制を検討する。	
32	市民芸術祭共催事業負担金	Ⅳ－8	暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進	戦略事業	市民の芸術文化活動の発表・鑑賞機会を創出する。	宇都宮市民芸術祭実行委員会	宇都宮市民芸術祭の開催	計画 どおり	7,318	S55		【①昨年度の評価(成果や課題)：より多くの市民への参加の呼びかけ】 ・各部門において、新型コロナウイルス感染症の影響のない形で通常開催を行い、常連の方に加え、若年層の出品も多くなり、幅広い世代の参加を募ることができた。 ・ギャラリー部門の優秀作品を市役所1階市民ホールに展示し、多くの市民に作品に触れる機会を創出した。 ・11月に第2回実行委員会を開催し、次年度の開催に向けて、課題などを共有した。 【②今後の取組方針：若年層をはじめとする、より多くの市民の参加促進】 各部門において創意工夫を図り、若い世代をはじめ、より多くの市民の参加促進に努めるほか、運営側にも若い人材の取り込みを図る。	
33	ジュニア芸術祭共催事業負担金	Ⅳ－8	暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進	戦略事業	小中高校生の芸術文化活動の発表・鑑賞機会を創出する。	うつのみやジュニア芸術祭実行委員会	うつのみやジュニア芸術祭の開催	計画 どおり	4,572	H11		【①昨年度の評価(成果や課題)：小中学校と連携した事業実施】 全部門とも例年同様の開催をすることができたが、出品数や参加者数、観覧者は新型コロナウイルス感染症流行以前の水準に戻っていないことから、引き続き、より多くの市民の認知度向上を図るとともに、小・中学校と連携し、出品数や参加者数の増加に努める必要がある。 【②今後の取組方針：参加者や出品数、参加団体の増加など、事業の活性化】 多くの市民に子どもたちの活動や、成長を一層感じてもらえる機会を創出するため、ジュニア芸術祭の認知度向上に向けた取組の検討、また受賞作品の情報発信などに努めていく。	

NO.	事業名	政策の柱 — 政策	施策名	好循環P ・ 戦略事業 ・ SDGs	事業の目的	事業内容		事業の 進捗	R5 事業費 (千円)	開始 年度	日本一 施策 事業	「①昨年度の評価(成果や課題)」と「②今後の取組方針」	見直し (予定)
						対象者・物 (誰・何に)	取組(何を)						
34	文化協会事業補助金	Ⅳ－8	暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進	戦略事業	市民主体による芸術文化の普及・振興を図る。	宇都宮市文化協会	ふれあい文化教室・文化探訪・文化協会スケッチ会の実施	計画 どおり	1,380	S54		【①昨年度の評価(成果や課題)：様々な文化の体験機会の確保】 ・文化協会まつりやこどもマジック教室、スケッチ・写真会、歌舞伎観劇会などを開催し、多くの市民が文化芸術に触れる機会の創出に取り組んだ。 ・文化協会会員が講師となり小中学校において実施する「ふれあい文化教室」については、箏・尺八や民謡、三味線、茶道などの伝統文化をはじめ、ジャズや百人一首等の本市ならではの文化に触れる機会を提供しており、子どもたちの豊かな感性や人間力の育成のほか、郷土に対する誇りや愛着の醸成に大きく寄与している。 ・自主財源の強化に向けて、協会の認知度の向上などに継続して取り組む必要がある。 【②今後の取組方針：市民主体による文化活動の促進への支援】 宇都宮市文化協会は各ジャンルで活躍している市内芸術家を統括した団体であることから、引き続き、市民主体の文化活動への支援を行うとともに、文化協会の自主財源の強化に向けて、令和元年度に協会が新設した企業・団体等向け講座「ふれあい文化教養講座」の周知・活用を支援していく	
35	宇都宮エスペール文化振興事業	Ⅳ－8	暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進	戦略事業	次代を担う芸術家の育成・支援を図り、本市の文化振興に寄与する。	今後の活躍が期待できる本市ゆかりの優れた芸術家	・隔年で宇都宮エスペール賞の選考、受賞者に育成金(200万円)を贈呈 ・エスペール賞の選考を行わない年は、プロポート事業(受賞者の発表機会提供事業・受賞者学校派遣事業)を実施 など	計画 どおり	1,176	H13	独自性	【①昨年度の評価(成果や課題)：本市の文化振興に寄与する次代を担う芸術家の育成・支援】 令和5年度は、プロポート事業の実施の年次であることから、コンサートやギャラリー展、学校への派遣事業など、受賞者の発表機会の創出に努めた。また、令和2年度の受賞者(ギャラリー)藤原彩人氏による成果発表となる個展が美術館で開催され、より多くの市民に本市ゆかりの芸術家の活動に触れていただく機会を創出した。 【②今後の取組方針：エスペール賞受賞者による市民が質の高い文化芸術に触れる機会の創出】 令和6年度は、ギャラリー部門の選考年として、7月から募集要項を配布し、10月まで募集を行う予定である。	
36	文化創造財団運営補助金	Ⅳ－8	暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進		市民文化の創造を図り本市の文化振興に寄与するため設立した文化創造財団の円滑な組織運営を支援する。	(公財)うつのみや文化創造財団	財団の組織運営に要する経費の一部補助	計画 どおり	70,371	H14		【①昨年度の評価(成果や課題)：指定管理2施設の適切な管理運営の実施、施設管理における感染防止対策の実施】 ・宇都宮市文化会館及び宇都宮美術館・文化の森の指定管理者として、感染防止対策を十分に執り、施設の適切な管理運営に努めた。 ・引き続き、物価高騰の影響が続いていることから、財団として適正な財務運営に努める。 【②今後の取組方針：本市の文化振興の中核組織としての機能強化及び適正な施設管理】 これまで職員が培ってきた舞台・音響・照明等の専門知識やスキルを生かした教育普及事業や、地域や市民団体が行う文化芸術活動の支援に積極的に取り組むほか、民間で行われている文化活動を含めた幅広い情報の収集・発信の充実に取り組む。	
37	文化会館管理運営事業	Ⅳ－8	暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進		文化会館の円滑かつ適切な管理運営と効果的な事業実施により本市の文化振興を図る。	(公財)うつのみや文化創造財団	指定管理者を運営主体とした文化会館の管理運営と文化振興事業の実施	計画 どおり	320,531	S54		【①昨年度の評価(成果や課題)：各種ホール事業の開催、施設利用の安全確保】 新型コロナウイルスの感染防止対策など利用者の安全確保に努め、市民が文化芸術活動に触れる機会の創出に取り組むなど、大・小ホールの事業はすべて実施することができ、利用率、利用料金収入は新型コロナウイルス感染症流行前の水準に近づくことができた。 【②今後の取組方針：施設利用の安全確保と文化団体等との連携及び情報発信力の強化】 ・感染防止対策を講じながら、会館の持つ舞台技術や事業実施の専門スキルを生かし、良質かつ魅力的な文化芸術事業を企画するとともに、地域や団体が行う文化芸術活動の支援や民間の文化活動を含めた幅広い情報の収集・発信に取り組んでいく。 ・大規模な催事の際は駐車場の不足が生じるとともに、駐車場内の混雑や西側出入口付近の道路で渋滞が発生していることから、引き続き公共交通機関の利用を促すとともに、財団と連携しながら対策の検討を進める。 ・令和4年度をもって閉店したレストランススペースの今後の活用について検討しつつ、施設敷地内にキッチンカーを出店し、施設利用者の食のニーズに応えていく	

NO.	事業名	政策の柱 — 政策	施策名	好循環P ・ 戦略事業 ・ SDGs	事業の目的	事業内容		事業の 進捗	R5 事業費 (千円)	開始 年度	日本一 施策 事業	「①昨年度の評価(成果や課題)」と「②今後の取組方針」	見直し (予定)
						対象者・物 (誰・何に)	取組(何を)						
38	文化会館整備事業	Ⅳ－8	暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進		利用者に安全で快適な施設サービスを提供する。	宇都宮市文化会館利用者	文化会館の施設・設備の計画保全や緊急対応	計画どおり	27,477	S54		【①昨年度の評価(成果や課題)】:計画的な保全整備による安全かつ快適な施設環境の維持と第2期大規模改修工事に向けた劣化診断調査の実施、進め方に関する検討】 ・開館から40年以上が経過していることから、施設・設備の劣化等に伴う保全整備に計画的に取り組んだ。また、第2期大規模改修工事の実施に向けて、改修箇所などを再整理するとともに、施設躯体の寿命を確認するための構造体劣化診断調査を実施したことから、この結果を踏まえた進め方を検討する。 【②今後の取組方針:再整備に向けた進め方や手法の再整理、計画的な施設維持・修繕】 ・令和4年度に実施した「構造体劣化診断調査(コア抜き調査)」の調査結果を踏まえ、令和5年度は大規模改修を見送ったため、市内にある類似施設との役割分担と、市域及び県域における当該施設の役割を見極めて必要な機能を整理するなど今後の在り方を検討していく。 ・空調設備やポンプ類など、緊急性の高い整備工事を実施しているが、空調設備は、整備費用抑制のため、2か年で工事を実施するなど、効率性を鑑みながら、安全な施設整備を計画的に進めている。	
39	美術館管理運営事業	Ⅳ－8	暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進		美術館及び文化の森の円滑かつ適切な管理運営と効果的な事業実施により本市の文化振興を図る。	(公財)うつのみや文化創造財団	指定管理者を運営主体とした美術館の管理運営と企画展などの事業の実施	計画どおり	439,879	H9		【①昨年度の評価(成果や課題)】:魅力ある企画展の開催と施設利用の安全確保】 5回の企画展を開催したが、特に、令和2年度のエスパール賞受賞者(ギャラリー)藤原彩人氏による成果発表となる個展が美術館で開催され、より多くの市民に本市ゆかりの芸術家の活動に触れていただく機会を創出した。また、「ヨインタケシンスケ展かもしれない」においては、過去2番目の入館者数を記録するなど、大変な好評を得ることができ、文化芸術の振興を図ることが出来た。 【②今後の取組方針:魅力ある企画展の継続開催と学芸員の専門スキルの向上】 ・学芸員の幅広い専門知識やスキルをさらに生かし、これまで収集した6,900点を超えるコレクションや、大谷石や宮染めなど本市の資源を活かした館外プロジェクトの企画,自然豊かな文化の森に立地する特色を生かした事業の企画に取り組む。 ・文化の森について、供用開始から25年が経過し、樹木の成長が著しく倒木や森林火災による延焼のおそれがあることから、オオタカ等の生態系の環境保全調査を踏まえ,樹木の伐採等の適正な管理を行う。 ・文化の森に設置されている休憩施設等について、四阿の老朽化のほか、四阿背部の崖の浸食や自然観察路内の雑木林の繁茂等が進んでいるため、来園者が安全に利用できるよう、改修・撤去など適正な管理を検討する。	
40	美術館整備事業	Ⅳ－8	暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進		利用者に安全で快適な施設サービスを提供するとともに、美術品の適切な保護を図る。	宇都宮美術館	美術館の施設・設備の計画的保全や緊急対応	計画どおり	11,209	H9		【①昨年度の評価(成果や課題)】:計画的な保全整備のための改修工事の実施】 展示室床改修工事や文化の森照明施設整備工事などを実施し、利用者の利便性の向上や安全性の向上を図る整備を実施した。 【②今後の取組方針:計画的な保全整備のための美術館施設設備の改修・修繕と文化の森の適切な管理の実施】 ・令和3～4年にかけて14ヶ月にわたる休館を経て、設備の大規模改修を終えたところであるが、引き続き、施設設備の適切な維持・保全管理に取り組む。また、展示室のスポットライト等、LED化が進んでいない照明設備もあることから、美術館と連携しながら更新作業を進めていく。 ・また、文化の森公園については、森の樹木が巨木化し、管理が難しくなっていることから、森の保全の観点や、高額な美術品を収蔵する美術館の保全の観点から、適切な管理に向けて必要な調査業務等を実施していく。	
41	美術館訪問鑑賞会事業	Ⅳ－8	暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進	戦略事業	子どもたちが質の高い芸術に親しむ機会を提供する。	市内小中学生	市有バス等を活用して美術館を訪問し、展覧会の鑑賞等を行う。	計画どおり	275	H30		【①昨年度の評価(成果や課題)】:子どもたちが優れたアートに触れる機会の提供】 参加した3校の児童生徒や教職員の満足度も高く、子どもたちの豊かな感性や人間力の育成に寄与した。 【②今後の取組方針:参加しやすく魅力的な事業内容の検討】 多くの子どもたちに優れたアートに触れる機会を提供するため、新型コロナウイルスの感染防止対策を十分に行い、参加校の利便性向上に努めていく。また、翌年度以降の募集に向けて、参加しやすく魅力的な事業になるよう内容を検討するなど、新規の学校の参加促進を図っていく。	
42	指定文化財管理費補助金	Ⅳ－8	暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進		所有者と連携し貴重な指定文化財等の保存を図る。	市内の指定文化財等の所有者	指定文化財等の維持管理に要する経費の一部を補助	計画どおり	97	S31		【①昨年度の評価(成果や課題)】:計画的な維持管理による安全かつ良好な文化財の保存】 指定文化財の維持管理に必要な費用を支援することにより、国指定文化財として価値を保持し保存を図った。 【②今後の取組方針:貴重な文化財の保存・継承の推進】 貴重な文化財を将来にわたり良好な状態で引き継いでいくため、今後とも所有者や管理者と連携しながら、文化財の適切な維持管理の取組を支援していく。	

NO.	事業名	政策の柱 — 政策	施策名	好循環P・ 戦略事業・ SDGs	事業の目的	事業内容		事業の 進捗	R5 事業費 (千円)	開始 年度	日本一 施策 事業	「①昨年度の評価(成果や課題)」と「②今後の取組方針」	見直し (予定)
						対象者・物 (誰・何に)	取組(何を)						
43	指定文化財等保存修理費補助金	Ⅳ－8	暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進		所有者と連携し貴重な指定文化財等の保存や活用を図る。	市内の指定文化財等の所有者	指定文化財等の修理に要する経費の一部を補助	計画どおり	4,421	S31		【①昨年度の評価(成果や課題)】:計画的な維持管理による安全かつ良好な文化財の保存】 ・史跡の環境整備のため、所有者と協議し、登坂路の整備や安全対策など、計画的に保存修理を行った。 ・経年経過による劣化や樹勢が衰えた文化財について、所有者とその対応について話し合う場を設け、計画的に保存修理を行った。 ・指定文化財の修繕事業について、所有者や国・県などと協議を行い、計画的に保存修理を行った。 【②今後の取組方針:貴重な文化財の保存・継承の推進】 貴重な文化財を将来にわたり良好な状態で引き継いでいくため、今後とも所有者や管理者と連携しながら、文化財の適切な維持管理の取組を支援していく。	
44	指定文化財保存活動費補助金	Ⅳ－8	暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進		市民協働により貴重な指定文化財等の保存や活用、継承を図る。	市内の指定文化財等の保存・愛護活動団体	指定文化財の維持管理活動や伝承活動等に要する経費の一部を補助	計画どおり	1,294	S32		【①昨年度の評価(成果や課題)】:市民主体による文化財の保存・継承の推進】 文化財保存・愛護団体における文化財周辺の清掃・除草作業、獅子舞の練習や祭りへの参加などの活動に要する費用の一部を補助することで、文化財の保存や継承の取組を支援したが、文化財保存・愛護団体は、高齢化や会員数の減少により活動が停滞傾向にある。 【②今後の取組方針:市民による文化財保存活用の推進】 後継者不足等の問題により活動が停滞している団体に対し、地域ぐるみでの活動の促進を助言するなど、適切な対応・支援を行っていく。	
45	文化財ボランティア支援事業	Ⅳ－8	暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進		市民協働により貴重な文化財の周知啓発を図る。	・宇都宮市文化財ボランティア協議会 ・市民 ・来訪者	文化財ボランティア養成講座の開催、城址公園等における案内活動等の実施	計画どおり	59	H20		【①昨年度の評価(成果や課題)】:市民ボランティアガイドによる市内歴史文化資源の周知啓発】 新型コロナウイルス感染症の収束を受け、1年を通じて宇都宮城址公園を中心に市内中心部の歴史文化資源の周知啓発や、市主催の事業への協力などを行った。 【②今後の取組方針:団体の円滑な活動に向けた支援】 観光客の増加に対応した団体活動の進め方などについて、宇都宮市文化財ボランティア協議会と意見交換を重ね、ボランティアガイド活動などがスムーズに運営できるよう支援していく。	
46	文化財周知啓発事業	Ⅳ－8	暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進	戦略事業	本市の歴史文化や文化財に対する理解促進や認知度向上を図る。	・市民 ・来訪者	文化財めぐり・普及啓発資料の作成等の実施	計画どおり	462	H3		【①昨年度の評価(成果や課題)】:各種事業の実施を通じた歴史文化に対する意識の高揚】 ・文化財めぐりについては、テーマに応じた文化財に触れる機会の創出に努めた。 ・市立小学校6年生の社会科授業で活用できる「宇都宮空襲パンフレット」を作成・配布し、子どもたちや保護者に戦争の悲惨さや平和の大切さを理解してもらうことができた。 ・メールマガジンやInstagramでの情報発信を毎週行うことで、市内の様々な文化財や文化財展示施設でのイベントなどについて効果的な情報発信をすることができた。 【②今後の取組方針:多様なツールを使った普及啓発の推進】 宇都宮の歴史や伝統文化の理解促進や認知度向上のため、文化財めぐりや「歴史と文化財ホームページ」、「宇都宮学」などの多様なツールを用いた普及啓発に引き続き取り組んでいく。	
47	宇都宮伝統(ふるさと)文化継承事業	Ⅳ－8	暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進	戦略事業	市民協働により本市に伝わる伝統文化・芸能・食等の保存と継承を図る。	宇都宮伝統文化連絡協議会	伝統文化フェスティバル・宮っ子伝統文化体験教室・伝統文化講座・ふるさと料理講座等の実施	計画どおり	3,471	H20		【①昨年度の評価(成果や課題)】:伝統文化に触れる機会の確保】 ・伝統文化連絡協議会会員が講師となり小中学校において獅子舞等の伝統芸能や黄ぶな絵付け等の伝統工芸、地域に伝わる民話語り等の体験機会を提供している「宮っ子伝統文化体験教室」は、市内30校を対象に実施することができた。 ・伝統文化フェスティバル(10月)はろまんちっく村を会場にして単独で開催し、伝統文化を継承する団体や小学校の発表の機会を設け、伝統文化の継承に努めた。 【②今後の取組方針:市民主体による伝統文化の継承活動への支援】 引き続き、「伝統文化フェスティバル」や各種講座、「宮っ子伝統文化体験教室」を実施することで、伝統文化に身近に触れる機会を創出するとともに、地域における継承活動の環境づくりや人材育成への支援を図っていく。	

NO.	事業名	政策の柱 — 政策	施策名	好循環P・ 戦略事業 ・ SDGs	事業の目的	事業内容		事業の 進捗	R5 事業費 (千円)	開始 年度	日本一 施策 事業	「①昨年度の評価(成果や課題)」と「②今後の取組方針」	見直し (予定)
						対象者・物 (誰・何に)	取組(何を)						
48	文化遺産を活用した地域活性化事業	Ⅳ－8	暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進	戦略事業	・歴史文化基本構想に基づき、本市の歴史文化資源に対する理解促進と認知度向上を図る。 ・地域ぐるみでの歴史文化資源の保存活用を図る。	・宇都宮市歴史文化資源活用推進協議会 ・指定・未指定の歴史文化資源	・本市の歴史文化を紐解くエイト・ストーリーの普及啓発の実施 ・「宇都宮市民遺産制度」の普及啓発及び認定団体への活動、補助金活用等の指導・助言	計画 どおり	1,978	H28	独自性	【①昨年度の評価(成果や課題)：本市の歴史文化資源の普及啓発及び保存・活用の推進】 ・「宇都宮城映像コンテンツ」の運用のほか、宇都宮城址公園内にのぼり旗を設置し、周知啓発を行った。 ・「宇都宮市民遺産制度」については、新たに2団体を認定するなど、文化遺産を活用した地域の活性化を着実に推進した。 ・市民とともに地域の文化財の保存・活用を計画的、継続的に取り組むため、宇都宮市歴史文化基本構想のアクションプランとなる「宇都宮市文化財保存活用地域計画」について、広く意見を聴取しながら計画策定にむけて取り組んだ。 【②今後の取組方針：本市の歴史文化資源の普及啓発及び保存・活用の推進】 「歴史と文化財ホームページ」やSNSなどの視覚的な情報ツールを用いてエイト・ストーリーの更なる普及啓発を進めるとともに、宇都宮城映像コンテンツを活用して宇都宮城の情報発信を推進する。また、「宇都宮市民遺産制度」について、引き続き制度の周知を図り、市民や地域団体の関心を高めるとともに既認定団体への支援に努めていく。	
49	日本遺産を通じた大谷石文化の保存・活用事業	Ⅳ－8	暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進	戦略事業	・「日本遺産 大谷石文化」の理解促進と認知度向上、保存活用を図る。 ・大谷地域の重要文化的景観選定に向けた取組を推進する。	・宇都宮市大谷石文化推進協議会 ・人々の生活や生業などにより作られた大谷地域の文化的な景観	・調査研究・情報発信・普及啓発・人材育成に係る事業の実施 ・大谷地域の重要文化的景観の重要な構成要素の所有者同意	計画 どおり	9,124	H30	独自性 先駆的	【①昨年度の評価(成果や課題)：宇都宮市大谷石文化推進協議会を核とした魅力発信事業の推進】 ・官民連携で設立した「宇都宮市大谷石文化推進協議会」を核として、大谷石文化の保存や活用に向け、情報発信・普及啓発・人材育成に係る様々な事業を実施した。 ・旧帝国ホテル「ライト館」開業100周年を記念したシンポジウムを開催し、翌日には構成文化財を巡るエクスカーションを実施し、参加者から好評を得ることが出来た。 ・「大谷の奇岩群と採石産業の文化的景観」を国の重要文化的景観にするための選定申出を行った。 【②今後の取組方針：大谷石文化に係る市民理解の促進と認知度向上】 ・様々な機会や媒体を通じて大谷石文化の価値や魅力の情報発信や普及啓発の充実を図り、地域の活性化につなげるほか、官民連携により大谷石文化を保存活用する取組を推進するとともに、協議会が持続的に活動できる組織体制づくりに取り組んでいく。 ・また、大谷地域の重要文化的景観選定後の周知啓発の手法を検討していく。	
50	文化財調査事業	Ⅳ－8	暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進	戦略事業	・文化財保護法に基づき、開発行為に伴う埋蔵文化財の適切な保護を図る。 ・市民協働により指定文化財の適切な保護を図る。	・市内の埋蔵文化財包蔵地 ・市内の指定文化財等	・埋蔵文化財包蔵地における開発行為に伴う発掘調査等の実施 ・宇都宮市文化財調査員活動の実施	計画 どおり	2,291	S42		【①昨年度の評価(成果や課題)：埋蔵文化財及び指定文化財の適切な保護】 文化財保護法に基づき、適切に遺跡の保護を図った。また、宇都宮市文化財調査員と連携し埋蔵文化財包蔵地の現況を調査し、問題のある遺跡の把握に努めた。 【②今後の取組方針：民間事業者の法令遵守意識の高揚による埋蔵文化財の適切な保護の推進】 文化財保護法に基づく届出を行わず埋蔵文化財包蔵地において開発行為等を行う事案が年数件発生していることから、ホームページでの情報発信や庁内他課の開発許認可窓口で周知文書を備え付けるなど、民間事業者に対する法令遵守や文化財の適切な保護に対する意識高揚や指導の徹底を図っていく。	
51	とびやま歴史体験館活用・啓発事業	Ⅳ－8	暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進	戦略事業	本市の歴史文化に対する理解促進を図る。	・市民 ・来訪者	企画展・講演会の開催	計画 どおり	170	H17		【①昨年度の評価(成果や課題)：本市の歴史文化に関する普及啓発の推進】 様々なテーマによる企画展や講演会を開催し、本市の歴史文化に対する理解促進に努めた。 【②今後の取組方針：とびやま歴史体験館の効果的な活用に向けた検討】 ライトライン「飛山城跡停留場」からのアクセス向上や、とびやま歴史体験館のより効果的な活用等を通じて、誘客促進について検討を進めていく。	
52	飛山城跡整備事業	Ⅳ－8	暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進	戦略事業	飛山城跡の適切な保存と活用を図る。	飛山城跡(国指定史跡)	施設・設備の整備・維持管理	計画 どおり	54,048	S52		【①昨年度の評価(成果や課題)：飛山城跡の効果的な活用に向けた検討】 ・飛山城史跡公園の大手木橋について、架替工事に係る実施設計を行った。 ・飛山城史跡公園内にある屋外便所の改修工事を行い、利用者の利便性向上を図った。 【②今後の取組方針：飛山城跡の効果的な活用に向けた検討】 劣化した大手木橋の架替工事を行い、来場者の受け入れ体制を整備する。	

NO.	事業名	政策の柱 — 政策	施策名	好循環P ・ 戦略事業 ・ SDGs	事業の目的	事業内容		事業の 進捗	R5 事業費 (千円)	開始 年度	日本一 施策 事業	「①昨年度の評価(成果や課題)」と「②今後の取組方針」	見直し (予定)
						対象者・物 (誰・何に)	取組(何を)						
53	うつのみや遺跡の広場改修事業	Ⅳ－8	暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進		うつのみや遺跡の広場の適切な保存と活用を図る。	根古谷台遺跡(国指定史跡)	施設・設備の整備・維持管理	計画どおり	438	S62		【①昨年度の評価(成果や課題)】：うつのみや遺跡の広場の効果的な活用に向けた検討】 老朽化により茅葺屋根の一部が崩落していた復元建物(J-20)について、屋根の部分修繕を実施した。 【②今後の取組方針】：うつのみや遺跡の広場の効果的な活用に向けた検討】 平成3年3月の開園から30年以上が経過しており、復元建物を含め施設の老朽化が進んでいる。引き続き、施設の老朽化に適切に対応するとともに、デジタルの活用も含め今後の展示施設の整備・活用のあり方について検討を進めていく。	
54	上神主・茂原官衙遺跡保存整備事務費	Ⅳ－8	暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進		上三川町と連携し上神主・茂原官衙遺跡の適切な保存と活用を図る。	上神主・茂原官衙遺跡(国指定史跡)	普及啓発事業の実施、保存のあり方の検討	計画どおり	645	H20		【①昨年度の評価(成果や課題)】：普及啓発の推進及び整備のあり方の検討】 ・史跡に関する講座の開催や市民ホールでの展示などの普及啓発に取り組んだ。また、保存整備委員会を開催し、今後の整備について検討した。 ・「上神主・茂原官衙遺跡出土刻書瓦」が国の重要文化財の答申を受けたことにより、改めて重要文化財としての周知啓発を行った。 【②今後の取組方針】：普及啓発の推進及び整備のあり方の検討】 ・上三川町と連携しながら保存整備委員会において、今後の活用方策や整備のあり方等について引き続き検討を行う。 ・重要文化財として答申を受けた刻書瓦について、市内外での展示や、上三川町と共催でシンポジウムを開催するなど、普及啓発事業を実施し、遺跡の認知度の向上と保存に向けた機運醸成を図っていく。	
55	史跡等整備事業	Ⅳ－8	暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進	戦略事業	市内の有形文化財や史跡、天然記念物等の適切な保存と活用を図る。	市内の有形文化財や史跡、天然記念物等	施設・設備の整備・維持管理	計画どおり	11,900	H20		【①昨年度の評価(成果や課題)】：貴重な建造物等の保存・継承に向けた工事等の実施】 ・重要文化財である旧篠原家住宅主屋の耐震対策工事に向けて実施設計業務委託を行った。 ・指定文化財に係る表示板等の設置工事を行い、文化財の効果的な活用に資するよう整備を行った。 【②今後の取組方針】：貴重な史跡等の保存・継承の推進】 ・旧篠原家住宅については、耐震対策工事実施設計に基づき、耐震対策工事に向けた国庫補助申請等の手続きを行っていく。 ・表示板の維持・管理については、文化財調査員とも連携を図りながら、定期的に現状を把握し、適切に対応していく。	
56	うつのみや百人一首市民大会交付金	Ⅳ－8	暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進	戦略事業	本市ゆかりの百人一首に触れ親しむ機会の創出を通じて、郷土愛の醸成と本市のブランド力の向上に寄与する。	うつのみや百人一首市民大会実行委員会	・うつのみや百人一首市民大会の開催 ・蓮生記念全国競技かるた宇都宮大会の開催 ・百人一首普及啓発事業の実施	計画どおり	2,914	H8	独自性 トップクラス	【①昨年度の評価(成果や課題)】：感染防止対策を講じて、市民大会及び全国競技かるた宇都宮大会を実施】 ・新型コロナウイルス感染症流行以前の参加者には届かないものの、前年の参加者を大きく上回ることができ、両大会を無事に開催することが出来た。 【②今後の取組方針】：感染防止対策を講じながら、コロナ禍前の運用による市民大会の実施と普及啓発活動の充実】 ・百人一首の認知度の高まりや普及啓発事業の効果などにより、市民大会、全国大会ともに参加者が増加してきており、今後、円滑な大会運営を確保するための適正な事業規模や運営スタッフの確保について引き続き検討していく。 ・大会の盛り上がりを含め市内外へ効果的なPRを行い、「百人一首のまち」の認知度やブランド力の向上を図っていく。 ・令和6年度は、市民大会が第30回目の節目を迎えることから、更なる大会の認知向上や参加者の増加に向けた普及啓発の取組みを拡充する。	

NO.	事業名	政策の柱 — 政策	施策名	好循環P ・ 戦略事業 ・ SDGs	事業の目的	事業内容		事業の 進捗	R5 事業費 (千円)	開始 年度	日本一 施策 事業	「①昨年度の評価(成果や課題)」と「②今後の取組方針」	見直し (予定)
						対象者・物 (誰・何に)	取組(何を)						
57	ジャズのまち普及事業補助金	Ⅳ－8	暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進	戦略事業	ジャズを核とした幅広い音楽の振興を通じて、郷土愛の醸成と地域の活性化に寄与する。	うつのみやジャズのまち委員会	ふれあい文化教室・渡辺貞夫ライブ・まちかどピアノ・ジャズセミナー・学校普及ジャズ等の実施	計画どおり	1,444	H22		【①昨年度の評価(成果や課題)】:子供から観光客まで、市内外に広くジャズのまちを普及するための各種事業の開催】 ・主な事業として、「まちかどピアノ」は、令和4年12月末から『ウツノミヤテラス』の協力を得て、利用中止となる期間もあったものの、3月中旬まで設置することができた。 ・また、子どもたちが本市ゆかりのジャズに親しむ機会を増やすため、学校に専門講師を派遣する「ふれあい文化教室」、一般公募で参加者を募る「ふれあいジャズセミナー」については、新型コロナウイルス感染症流行前と同様に実施できた。 ・このほか、4年ぶりのナベサダライブ『渡辺貞夫カルテット2024』の開催、令和3年度から20周年事業として取り組んできたジャズ史の編集が終了し、刊行することができた。 【②今後の取組方針:市内外に向けた『ジャズのまち宇都宮』推進のための各種事業の実施】 ・音楽のあふれるまちの更なる活性化に向け、各種事業の魅力の向上・発信に努める。 ・「まちかどピアノ」については、テナント入居等の理由から『ウツノミヤテラス』での実施ができなくなっていることから、街なかの商業施設や公共施設等と調整を図り、新たな設置個所での実施に取り組む。 ・20周年記念事業であるジャズ史を刊行したことから、さまざまなイベント等で販売し『ジャズのまち宇都宮』の周知を図る。	
58	妖精資料活用事業	Ⅳ－8	暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進	戦略事業	妖精ミュージアムを核とした妖精資料の普及啓発を通じて、中心市街地の活性化に寄与する。	・市民 ・来館者	企画展の開催、ギャラリートーク・読み聞かせ等の実施	計画どおり	1,613	H19	独自性	【①昨年度の評価(成果や課題)】:特色を生かした展示事業の実施】 ・井村名誉館長やボランティア団体と連携を図りながら、ギャラリートークをはじめとした魅力ある企画や円滑な施設運営を行った。 ・4年ぶりの外部アーティスト(たまねぎ図書)による企画展「空想紀行 夜に旅する」を開催した。 【②今後の取組方針:親子をターゲットとした企画等の充実及び施設特性を生かしたPRの強化】 ・「ゆうあいひろば」との連携を図り、ファミリー向けの企画など魅力的な事業の企画に取り組むほか、全国的にも稀有な妖精ミュージアムとして、SNSを活用してイベント情報を随時発信するなど、市内外への効果的なPRを行う。	
59	宇都宮ブランド戦略の推進	Ⅳ－9	都市ブランド戦略の推進	好循環P 戦略事業	本市の魅力や都市イメージの向上により、市民の誇りや市外からの憧れなど愛着を獲得する。	市内外の人、企業等	本市の魅力を知ってもらう「認知」の取組と好きになってもらう「信頼」の取組の推進	計画どおり	92,956	H20	先駆的	【①昨年度の評価(成果や課題)】:戦略的な都市ブランドの推進】 ・「人や企業から選ばれる都市」の実現に向け、総合的・戦略的な都市ブランドを推進するため、市民・事業者・行政など地域の各主体と共有する基本理念や目標、方向性などを示す「宇都宮ブランド推進ビジョン」を策定(令和6年2月)した。 ・本市の「子育てのしやすさ」や「暮らしやすさ」などをPRし、移住定住の更なる促進を図るため、令和4年度に制作した動画素材等を更新・活用しながら、テレビCMやインターネット広告、鉄道広告など多様な媒体を効果的に連動させた戦略的なプロモーションを展開したことにより、市内外における「居住地としての宇都宮」をはじめとした本市の認知度向上が図られ、移住相談件数については、過去最高値を更新した。(移住相談件数 R4:448件⇒R5:556件) ・その他、ライトラインの開業や国際的なスポーツイベントなどの本市に注目が集まる時機を捉えた魅力発信や市内ラジオ、SNS等を効果的に活用した情報発信を実施した。 ・今後は、「宇都宮ブランド推進ビジョン」に基づき、更なる本市のイメージアップやシンビックプライドの醸成による、交流・関係人口の創出拡大、移住定住の促進に繋げるとともに、市内外からの注目・関心が集まる時機を的確に捉えながら、戦略的な本市ブランドプロモーションを展開していく必要がある。 【②今後の取組方針:本市への来訪や移住定住の促進につながるプロモーション等の充実・強化】 ・本市が抱える人口減少や少子化等の課題を踏まえ、東京圏の子育て世代や若者をターゲットに設定した上で、これまでに実施した移住定住プロモーションのノウハウを最大限に活用しながら、本市への来訪促進に加え、本市の住みやすさや賑わいなどをPRする集中的なプロモーションを展開する。 ・また、時機を捉えたブランドプロモーションについては、ライトラインの開業1周年事業や国際的なスポーツイベントの開催などに併せて展開していく。	拡大

NO.	事業名	政策の柱 — 政策	施策名	好循環P ・ 戦略事業 ・ SDGs	事業の目的	事業内容		事業の 進捗	R5 事業費 (千円)	開始 年度	日本一 施策 事業	「①昨年度の評価(成果や課題)」と「②今後の取組方針」	見直し (予定)
						対象者・物 (誰・何に)	取組(何を)						
60	東京圏から本市への移住・定住等の促進	Ⅳ－9	移住定住支援の充実	好循環P 戦略事業	本市へ移住・定住する人の増加	東京圏を中心とした、本市外に在住する方	・東京圏における移住定住プロモーションを通じた本市の魅力や情報の発信 ・本市での生活等について理解を深められる体験事業の実施 ・移住定住相談窓口miyacomeにおける相談受付 ・本市における各種支援制度の利用促進	計画どおり	125,810	H28	独自性	【①昨年度の評価(成果や課題)：移住定住に関する情報発信や施策事業の充実】 ・県内全市町による移住セミナー、ふるさと回帰支援センター主催の全国自治体と連携した移住セミナー等を通じた情報発信を実施するとともに、地方への移住を検討する方を対象に、お試し宿泊体験等を行うみや暮らし体験(R4：7組13名⇒R5：59組114名)を実施した。 ・また、子育て世代等をターゲットとしたデジタルマーケティングに取り組むとともに、JR宇都宮駅直結の複合施設「ウツノミヤ テラス」の「宇都宮市移住定住相談窓口miyacome」における支援メニューの充実を図るほか、市公式LINE「教えてミヤリー」を活用した情報発信を行った。 ・さらに、本市居住者の定住促進に向け、新幹線通勤・通学支援制度を開始し、市ホームページやJR宇都宮駅の新幹線改札でのチラシ配布などの周知を行い、83人の方に補助支援を実施することができた。 ・移住・定住に係る相談の延べ件数については、過去最高値である令和4年度比約1.2倍(R4：448件⇒R5：556件)に増加している。 ・一方で、ポスト・コロナの時代に突入し、再び、都心回帰の流れが進行するなど、今後、東京圏への転出超過の拡大も懸念されることから、特に東京圏への転出超過が顕著な10代・20代の若年層を対象とした、移住定住につながる戦略的な情報発信や施策・事業の検討・展開が必要である。 【②今後の取組方針：移住定住の更なる促進と関係人口の創出】 ・ターゲットを捉えた戦略的な情報発信に取り組むため、メディアやデジタルマーケティングなどを効果的に活用していく。 ・ふるさと回帰フェアなどの移住セミナーを通じて、本市の優れた住環境や子育て・教育環境などをPRする機会を拡充させていく。 ・また、若者の地方移住促進に係る国の動向を注視しながら、東京圏からの若年層の移住定住促進策を検討していく。	拡大